ハッピーバースデイ to 大館

市制施行四十周年にちなみ、市議会議長としての経験もあり、市誕生前からの歩みを見続けてこられた佐藤民二郎さんと、市と同い年の五十嵐優子さんのお二人に、思い出やエピソードなどを寄せていただきました。

市民の声を聞き さらなる発展を願う

佐藤民二郎さん（長倉町）

古くから大館は北秋田の政治、経済の中心でしたから、地域を発展させるには、市となって強力な自治体となることが必要でした。大館町単独では市になれなかったため、周囲の町村へ合併しようと働きかけていました。昭和二十六年、大館町と釈迦内村との合併は簡単に決まったと記憶してます。市が発足したときの人口は三万五十六人。日本一小さい市で、発足後の選挙で当選した市長も日本一若かったから、新聞の全国版に載るなど話題になったものです。

当時、市になるための要件は、第一に人口が三万人以上であること、そのほかに乗合バスや映画館が三館以上あることなどいろいろありました。それで、乗合バスを町営でやろうとして、バスの運行許可を申請しましたが、それと同時に現在の秋北バス会社も申請したんです。結局、秋北バス会社に決まりましたが、公共性ということから町、町議会、バス会社からそれぞれ委員をだして、運行の適正な運営のためにバス運営委員会を設置しました。

市制施行後は、市は郡から離れるため、新規事業をするときなど、鷹巣にある郡役所を通さずに直接県へ手続きやお願いができるようになりましたから便利になりました。そのほかに、道路が整備されたこと、町時代から計画していたがなかなかやれないでいた上水道ができたこと、さらに、冬季国体スキー大会を開催できたことなど、たくさん良いことがありました。

しかし、昭和二十八年から三十一年までの四年間に市の中心部が三度の大火にあって、市財政はもちろん、市民にとっても苦しい時代がありました。中でも、昭和三十一年の大火が一番大きくて、常盤木町、鍛冶町、大町、長倉町、中町など市の繁華街が焼け野原となりました。罹災者の約八割が借地や借家で生活または営業してましたから、その人たちと地主や家主との間に借地・借家問題でのトラブルが相当あって、市に相談窓口を設けたこともありました。

片町の大火復興の際、市では国の指導もあって耐火構造の建物を建てるようにしました。それは東北で初めての鉄筋コンクリート造りの連鎖店舗で、当時はたいへんモダンなものでした。

三度も続いてあった大火にもめげず、たいへん苦しい中でその復興を短期間で成し遂げまし

56年
11月・長根山アストロシャンツェ完成
・市の花に「キク」を指定
12月・釈迦内体育館完成

57年
3月・広域ごみ焼却場完成
・働く婦人の家完成
6月・市民文化会館オープン
12月・城西体育館完成
・長木川河川公園事業スタート

58年
3月・中央図書館完成
5月・日本海中部地震発生
12月・非核・平和都市を宣言
・真中公民館完成

59年
3月・十二所体育館完成
8月・秋田インタハイ、ウエートリフティング・水球競技開催
12月・広域し尿処理施設完成

60年
3月・花岡公民館改築完成
6月・「日中友好親善の集い」開催
7月・第34回秋田県中学校総合体育大会開催
12月・中央公民館完成

61年
10月・十和田大館樹海ライン全線開通
12月・スポーツ都市を宣言

62年
3月・釈迦内鉱山閉山
・「小さな親切」実践都市を宣言
11月・忠犬ハチ公銅像再建

63年
2月・公共下水道事業工事スタート
11月・冷害により天災融資法・激甚災害法適用

平1年
6月・養護老人ホーム「成章園」完成
・8月18日を「米の日」に制定
11月・高規格道大館西道路建設工事スタート
・住民情報オンラインシステム運用開始
3月・「大館八幡神社本殿」国重要文化財に指定
4月・ふるさと創生大滝温泉蘇生事業工事スタート
11月・十二所地区統合簡易水道拡張工事完工

3年
1月・大館市ペット霊園完成
4月・市長に小畑元氏当選
11月・生涯学習フェスティバル「まなびピア」開催

「米の日」に開催された国際シンポジウム